

絵本作家・松本春野の本

今回は、絵本作家・松本春野（まつもとはるの）さんの本をご紹介します。

松本春野さんは、1984年の東京生まれです。大学在学中にロンドンに留学し、ヨーロッパに住む絵本作家たちを訪ね刺激を受けます。2006年に多摩美術大学油画科卒業後、2009年に「絵本・おとうと」でデビューしました。現在は、絵本作家・イラストレーターとして、子どもの本や雑誌を中心に活動しています。

1冊目は、斎藤茂太（さいとうしげた）文、松本春野 絵、「モタさんの“言葉” 1・2」です。この本は、NHKの番組『モタさんの“言葉”』を書籍にしたものです。著者は、「モタさん」の愛称で親しまれた精神科医で、2006年に90歳で亡くなりました。著者は、「言葉には、人を力づける不思議な力があるものだ。」と語り、さまざまな名言を長年に渡りメモし、コレクションしていました。そんな名言の中から、大切な人や自分自身に贈りたい言葉を、松本春野さんの暖かなイラストを交えながら、紹介しています。また著者は、「いい言葉を知っていると、いい友だちに恵まれたように、自然に生き方上手になる。」と語っています。いい言葉に出会えれば、生き方のヒントが見つかるかも。

2冊目は、くすのきしげのり作、松本春野絵、「L i f e（らいふ）」です。小さな町はずれに、『L i f e』という小さなお店があります。お店と言っても誰かが働いているわけでも、なにかを売っているわけでもありません。でも、このお店には、品物がありますし、お客さまも来ます。ある冷たい風の吹く日、一人のおばあさんが花の種をもって、『ライフ』にやってきました。

冬の間このお店には、おばあさん以外にも、たくさんの人が訪れました。そして春になり、もう一度『ライフ』にやって来たおばあさんがお店の中で見たものは…。お店を訪れる人を通して、それぞれの人生の一コマと町の人たちのつながりが描かれた心温まる絵本です。

3冊目は、岩國哲人（いわくにてつんど）原作、松本春野文・絵、「おばあさんのしんぶん」です。70年以上前、戦争が終わった頃、大阪から出雲にたてつおは、学校に行き、家の手伝いや畑仕事をしながら生活していました。そんな苦しい生活の中で、どうしても新聞が読みたくて、配達の仕事を始めたてつおに、新聞を読ませしてくれる老夫婦がいました。時がたち、おじいさんに次いでおばあさんも亡くなったとき、てつおは思いがけない事実を知ります。この絵本は、政治家・岩國哲人さんの実話をもとにしたお話です。

今回ご紹介した本以外にも、図書館には様々な本があります。ぜひ、図書館にご来館ください。